

神社の杜(三十七)

御岳ビクターセンター

片柳 茂生

また一本、巨樹が逝く

九月二十一日に台風十五号が上陸し、関西から北海道に至まで各地に被害もたらされました。水害、土砂崩壊、など様々な災害が人々の生活を脅かしました。御岳山も例外ではありませんでしたが、テレビや新聞のニュースで取り上げられるような大きな被害こそありませんでした。それでも数カ所で、木が折れたり倒れたりして道を塞いでしまったり、施設を壊したりと住民に不安を与えました。中でも一番の被害は、御岳山を襲った台風で、過去一番の被害が大きかったのは、昭和四十一年九月二十四日に起こりました。

それまで、境内に立ち並び、森厳な雰囲気や醸していた杉や檜の巨樹たち、そのほとんどが一夜にして倒れてしまったの



です。それはもう見るも無惨な光景でした。倒れた木によつて、拝殿は壊れ、神仏混淆の名残であつた鐘楼も潰れてしまいました。

この台風にも負けずに残つていた巨樹たちも、昭和五十四年、平成八年の台風で一本また一本と力尽き、倒れていきました。そしてこの度の台風でも、樹齢三百年は優に超えているだろうと思われる杉の巨樹が、根本近くからポツキ

りと折れ、参道近くの石碑や電柱を巻き添えにして倒れてしまったのです。この杉は、三柱社から長尾平に向かつて十数歩程入つた道の傍らに立っていました。三柱社周辺では、唯一昭和四十一年の台風に耐えて残つた杉です。ビ

クターセンターの事務室の窓からもこの木は見る事ができ、神社を望めば必ず視界に入っていました。

この杉にはちよつとした思い出があります。それは、ムササビ観察会を始めた頃のことでした。ある観察会の時、私の担当は参加者と離れ、この杉の周辺でムササビを探す役目でした。

一人静かに佇みながらムササビの気配を探っていました。すると近くでムササビが大きな声で鳴き、その方向に目を向けると、この杉の木から随神門に向かつて飛び出したムササビが目に入りました。ゆっくりと音も立てず、無防備に白いお腹を晒して大滑空するムササビの姿が強く印象に残っています。

以前の台風にも耐えたが、この台風で逝つてしまいました。大きく、独立して聳えていたこの杉は、ムササビだけでなく多くの生き物に、休憩する場所、餌を探す場所、そして住処としての役を担ってきたことでしょう。自然の成り行きとはいえず、悲しい出来事でした。

表紙写真 鈴木 新吾

「奥の院」

彩りのある木々の中に包まれた「奥の宮」。美しい景色を愛した日本武尊が祀られております。尊もお社から秋の景色を楽しんでおられる事でしょう。

あとがき

未曾有の被害を生んだ震災・大型の台風の上陸など、大きな自然災害が起こり、日本だけでなく世界規模でも、地球環境の変動が懸念されております。たかだか百年の急激な変化には人間だけでなく、地球すらもついて行けないのかもしれない。人間が環境を変化させ天災が起きるならば、もはやそれは人災ともいえます。自然を変える力が人間にあるならば、元に戻す力も人間は持っているはず。自然への感謝と畏怖の心を感じ起し、復興のために力を合わせ、この先の日本が、優しい国になっていくように心がけて生きていきたいと思えます。伊吹 吾郎様 西島 由起子様 齋藤 慎一先生、ビクターセンター片柳様には、玉稿をありがとうございます。

お詫びと訂正

三十四号におきまして、P六の御講中様からのお話の中で、講中様名が間違っている、訂正前の物が配布されております。御講中様並びに関係各位の皆様にお詫びいたします。訂正前の武州御嶽をお持ちの崇敬者の方々は訂正の程をお願い申し上げます。誤 立川寿講 ↓ 訂正 玉川寿講

平成二十三年九月三十日発行
〔年二回発行・非売品〕

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四六(七) 八五〇
FAX 〇四六(七) 九七四

印刷 (株)成和印刷
http://www.mtsashimakejint.jp/